

日本学術会議だより

第13期最後の総会終わる

—「国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)」を採択—

昭和63年5月 日本学術会議広報委員会

国際間の科学技術協力と研究の自由について(声明)
—日米科学技術協力協定の改定に当たって—

最近、日米両国政府間で大筋が合意された「日米科学技術協力協定」の改定について、目下伝えられる内容に関しては憂慮すべき点が少なくない。

日本学術会議は、さきに「科学者憲章」(声明)、「科学の国際協力についての日本学術会議の見解」を採択し、科学者の責務と学術の国際交流に当たっての基本的な原則を明らかにした(この部分は本文を簡略化した)。

二国間の学術交流は、相手国の固有の事情があるにしても、上述の日本学術会議が宣明した全世界的な学術交流の原則と相容れない内容を含むものであってはならない。全世界的立場と個別の二国間協定の立場とは差異がありうるにせよ、いかなる場合にも自由な研究交流、成果の公開といった基本原則はかたく守られなければならないと考える。

今回の「日米科学技術協力協定」の改定は「安全保障」、「知的所有権」の問題を包含すると伝えられているが、このことによって科学者の研究・発表の自由、科学者の身分保障などが実質的に制約される恐れがある。したがって、協定の具体的内容の決定に当たっては、慎重な配慮が必要である。

われわれは、「日米科学技術協力協定」の改定に当たって、本会議が明らかにしてきた上述の諸原則の精神を最大限に尊重することを強く要望するものである。

この種の科学技術協力に関する国際的取極については、事前に広く科学者の意見を聴取すべきものであると考える。

太陽地球系エネルギー国際協同研究計画
(STEP)の実施について(勧告)

暗黒の宇宙空間に浮かぶ青いルビーのように光る地球が、我々にとってかけがえのない惑星であることが理解されるようになったのは、20世紀の科学研究の最大の

成果の一つである。宇宙空間に浮かぶ我が惑星、地球には、太陽からの紫外線や太陽風プラズマが絶えず襲っていて、絶妙なエネルギーバランスを保ちつつ、地球の電磁圏や中間圏、成層圏を作っている。しかしこのシステムには、未だ多くの謎が残されていて、この謎の理解は宇宙空間の基礎物理の理解とともに永続的な地球環境変化の理解の基礎ともなっている。したがって国際太陽地球系物理学・科学委員会(SCOSTEP)は、国際科学連合会議(ICSU)の承認を得て、太陽地球系エネルギー国際協同研究(Solar Terrestrial Energy Program: STEP)計画を立て、1990~1995年の6か年間にわたりその実施を行うよう、各国に要請している。

本研究計画では、太陽から、地球成層圏にわたる、全領域について、それを一つのシステムにとらえ、そこに展開する電磁現象、プラズマ現象、及び化学現象について、現象の変動のみならず、エネルギー伝播の変化も合わせ、定量的に究明することを目指している。我が国でも本国際協同研究計画を実施すべく、今回、第104回日本学術会議総会において、政府に対する勧告が出された。

全国学術研究団体総覧(1988)

学術研究団体調査の結果をもとに、我が国の学術研究団体1236団体が分野別に、また大学関係学会等一覧が収録されています。[日本学術会議事務局監修・(財)日本学術協力財団編集・6500円・郵送料350円]

※本総覧は、全国の政府刊行物サービスセンターで販売

日本の学術研究動向(昭和63年4月)

人文・社会科学及び自然科学を網羅した科学者から成る日本学術会議において、全学問分野にわたり、学術研究の動向の現状分析とその展望を行い、その成果を取りまとめたもの。[日本学術会議・(財)日本学術協力財団発行・5000円・郵送料300円]

※本資料は、(財)日本学術協力財団で取り扱っています。

雑報

へびつかい座1988年新星

静岡県竜洋町の和久田実氏は、1988年4月10日17時11分に撮影した写真原板上及び、4月13日17時47分、4月14日18時15分(いずれも世界時)に撮影した写真上で、それぞれ8.5等、10.1等、10.2等の新星状天体を発見した。この位置には3月27日以前には、該当する天体がないこと、さらにリック天文台写真図にも見当たらないこと、などから東京天文台へ連絡して来られた。

東京天文台では、以上の状況をへびつかい座の天体と

してIAU天文電報中央局へ通報した。

4月15日発行のIAU回報4581によると、へびつかい座の変光星とされているが、4月19日発行の4582号ではへびつかい座1988年新星と改められている。

和久田氏が4月14日に撮影した原板を筆者が測定し、下の位置を得た。

$$\alpha = 17^{\text{h}}08^{\text{m}}50^{\text{s}}.84 \quad \delta = -29^{\circ}33'58''.4 \quad (1950.0)$$

オーストラリア、サイディングスプリング天文台の、マックノートは、U.K.シュミットによる1976年5月31日撮影の青色光での写真に、約20.5等級の像が検出できたと報告している。(香西洋樹)